

令和7年度 第1回学校評議員会 会議録

○日 時 令和7年6月18日(水) 10:30～12:20

○会 場 田名部高等学校 会議室

○出席者 学校評議員等(6名)・・・ A:全日制卒業生の保護者代表、B:全日制の保護者代表
C:定時制の保護者代表、D:同窓会代表
E:地域住民の代表、F:教育関係の識者

いじめ防止専門員(1名)

学校側(8名)・・・ 校長、全日制教頭(司会)、定時制教頭、事務長、教務部主任、
生徒指導保健部主任、進路指導部主任、教務部員(記録)

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 校長挨拶
 - 4 出席者自己紹介
 - 5 学校経営方針説明(校長)
 - 6 学校概要説明(教務部、生徒指導保健部、進路指導部、定時制)
 - 7 質疑応答
 - 8 授業参観(11:35～12:05)
 - 9 助言・講評
 - 10 その他
 - 11 閉会

○会議録

1 開会 ※省略

2 委嘱状交付 ※省略

3 校長挨拶

(1) 全日制について

6/24(火)～6/27(金)に1学期期末考査を控えている。文型・理型、年次によって異なるが10科目程度、2年次文系は13科目受験する。現在は試験週間中。

先日、高校総体に参加し、陸上競技部、フェンシング部、ローイング部が東北大会に出場する。高校総体後、1、2年次生徒は3年次の引退に伴い中心となる。また、引退した3年次の生徒達は、進路志望実現に向けて切り替える大切な時期になる。

1年次は不登校傾向の生徒が数名いる。担任中心で年次主任、年次団で協力し、保護者、本人と連絡・面談しながら適切に対応している。

(2) 定時制

7/1（火）～7/3（木）に1学期期末考査（6～8科目）を控えている。来週から放課後補習を設ける。

定通総体は陸上競技2名、バドミントン4名が出場した。そして、陸上競技1名、バドミントン1名が全国大会出場を果たした。

4、5月の出席率は90%と高く、生徒はよく頑張ってくれている。

4 出席者自己紹介 ※省略

5 学校経営方針説明(校長)

【重点目標・具体的方策】

全日制と定時制の役割分担が明確ではなくなっている。全日制でも難関校を目指す生徒の指導と併せて、特性をもった生徒のサポートも必要である。定時制も広く捉えると、同様の状況にあるため、来年度は、全日制と定時制の経営方針をもっとオーバーラップさせてもよいと考えている。

【今年度の学校運営上の方針】

生徒と接するときは「認めてあげる（許してあげる）」、「褒める」、「励ます」を基本に据えて生徒の自己肯定感、自己有用感をもたせるという姿勢を共有している。

本校の先生方は非常によく働いてくれている。スクラップ&ビルドの「スクラップ」を意識して働くことをお願いし、また、年度途中で良い提案があれば変えていこうと考えている。これらのために些細なことでよいから先生方からの意見を求めている。

積極的に自分の時間、健康を優先してほしいと伝えている。

6 学校概要説明（教務部、生徒指導保健部、進路指導部、定時制）

【教務部主任】

(1) 現状と課題について

- ・既存の業務に加え、新しい業務が増えていくことでさらに仕事量が増えている。

(2) 今年度取り組む具体的方策について

- ・個別の指導、学校全体の教育課程、規程等業務内容を整理していく。

【生徒指導保健部主任】

(1) 現状と課題

- ・明るく素直な生徒が多く基本的に落ち着いて生活できている。
- ・心身の不調を訴える生徒、悩みを抱える生徒が増えてきている。
→スマートフォン等のツールによって無料で関係を作れる一方、交友は広いが関係性は希薄となり、そこから悩みに繋がっていくように感じられる。
- ・登校時、昨年度は8：20ギリギリに来る生徒がいた。
→今年度は、8：20に席に着いていることを全校生徒に伝え実践できている。

(2) 今年度取り組む具体的方策について

- ・生徒に伝わる言葉や示すべき数字、時間等を吟味しながら、生徒の悩みの解決や生活のサポートを図る。

【進路指導部主任】

(1) 現状と課題

- ・定員割れが続く中、学力層の幅が拡大している。学力層の広がりによって進路志望の幅も広がる中、どのように達成していくのか。
- ・大学入試の多種多様な形態によって指導内容も多岐にわたる中、生徒たちの進路志望をどのように実現していくのか。
- ・昨年度の進路実績：国公立に進学する人数が例年に比べ多かった。
- ・学習意欲の高い生徒が多く、高いレベルの大学を目指す生徒がチームを結成して頑張っている。

(2) 今年度取り組む具体的方策について

- ・大学の推薦・総合型等は学校全体で指導体制を敷いて指導する。
- ・講習、模試等は例年の体制を維持しながら何がベストか情報交換しながら積極的に進める。
- ・教員同士でアイデアを出し合いながら、本校の実態に合わせたベストな指導方法を探る。

【事務長】

- ・今年度、非構造部材の耐震改修工事及び教室棟1～3階に多目的トイレを設置する計画があり、7月の最後の週から着工予定である。

【定時制教頭】

- ・定通総体は、陸上競技に2名参加し、1名が400m走で全国大会出場を決め、もう1名は100m4位で入賞であった。バドミントン競技には4名参加し、男子1名が準優勝で全国大会出場を決めた。
- ・現在、北斗高校の定通併修を受講し、3年で卒業する予定の生徒が数名いる。
- ・4年次6名、3年次5名の計11名が卒業予定（大学進学、専門学校、就職を考えてる）。
- ・何名か不登校気味であったり、早退する生徒もいるが概ね生徒は学校に来ている。

7 質疑応答

○いじめ防止専門員

- ・カウンセリングに使っている部屋が夏は非常に暑い。窓枠取付型のエアコンをできるだけ早いうちに設置してほしい。
 - （事務長）検討する。カウンセラー室が空いていないときにエアコンのある別の部屋で活動可能か。
 - （いじめ防止専門員）学校の先生や生徒、保護者の方がよければかまわない。昨年度は校長室前の応接室を使っていたら学校側で急な用事が入り、出ていくように言われた（予約は取っていた）。
 - （校長）他にカウンセリングに使えるエアコンのついている部屋はあるか。
 - （いじめ防止専門員）会議室横の部屋（第2カウンセラー室）はエアコンが無く、会議室にはエアコンがない。
 - （校長）窓枠取付型のエアコンを設置するのにいくらかかるか。
 - （事務長）1台で約30万かかる。配線の関係で場所によって金額も変わるので調べるところから早速検討に入る。

○D：学校評議員

- ・定時制の生徒数のことについて。今年の入学生は8名だったが、受検者数自体が少なかったのか。
- （定時制教頭）夏の学校説明会の参加者は30人近くいが、五所川原第一高校ができた影響もあるのか受検者は少なかった。

○A：学校評議員

- ・自転車通学している生徒が多い。来年の4月から自転車の交通規制が厳しくなるため生徒や保護者に対して指導や説明の機会が必要だと考える。
- （D：学校評議員）最近でこそ一時停止する車が増えたが、一時停止をしないで走る自転車を見かけることがあった。
- （生徒指導保健部主任）自転車に関する苦情が現在1件あった。厳罰化のニュースもあるため生徒に注意喚起していく。

○F：学校評議員

- ・現状、何人くらい医学部を志望し、合格しているか。医学部の合格率を高めるためにどのようなことをしているのか説明をしてほしい。
- （進路指導部主任）昨年度は2名合格している。1年次から進路指導部主催の「プロフェッショナル」による講話、県主催の外科手術体験セミナーへの継続的な参加、次の企画で外部の医療関係者との懇談の機会を与えることで志望理由を固めていった。
弘前大学医学部は学力も重視するため、早い時期から意識させ勉学に励むよう声がけをしていた。
現在の3年次に医学部医学科志望者はいない。2年次には2名、1年次には3名いる。
以前は「まさかり高校」というむつ地区の学力の高い生徒向けの学力向上の機会が設けられていたが、昨年度から廃止されたため学校でどのような取り組みができるか年次で相談中である。

○F：学校評議員

- ・不登校生徒の傾向について伺いたい。
- （校長）必ずしも成績とリンクしてはいない。決して成績が悪くない生徒も不登校になっている。中学校の時から不登校の傾向があった生徒もあり、原因は多種多様である。

8 授業参観（11：35－12：05） ※省略

9 助言・講評

○A：学校評議員

- ・田名部高校の生徒は皆真面目に一生懸命勉強や部活動に取り組んでいる。
- ・学力差のある生徒への指導が大変だと感じた。

○B：学校評議員

- ・生徒の雰囲気が良い。
- ・保護者と学校が連携を取ることで子どもをよい方向に向かわせていきたい。

○C：学校評議員

- ・多種多様な生徒がいる中、先生方の個々に対する愛情が感じられる。
- ・定時制において、担任以外でも声がけをしてくれる先生がいるのがよいと感じた。
- ・進学希望、資格取得の際に先生方が生徒に沿った提案や対応をしてくれているのありがたい。
- ・生徒の学力の差が気になる。
 - （進路指導部主任）全日制のトップ層は難関大を目指せる実力を持っている。中間層は地方国公立、有名私立等を狙える学力がある。一方、下位層は英語のアルファベットを間違える、数学を極端に苦手としている等、中学校までの勉強に不安を抱える生徒がいる。

○いじめ防止専門員

- ・いじめの未然防止には学習と人間関係が大切である。
- ・アセス（質問紙）を活用してはどうか。
- ・いじめが起きた場合、被害者・加害者に、その時「どんな気持ちだったか」、「どうしたかったのか」、「実際どうしたのか」、「そういう自分をどう思うか」、「今だったら何ができるか」を聞いて情報収集し、支援を行うとよい。

○F：学校評議員

- ・先生が生徒と向き合う時間を確保してほしい。
- ・自己肯定感が低い生徒が多いため、先生方の声がけが必要である。

○E：学校評議員

- ・文武両道が成り立つのは、先生方の尽力のおかげだと思う。

○D：学校評議員

- ・勉強できる環境が整っている。
- ・「認める、褒める、励ます」を大切にしてほしい。

10 閉会 ※省略

〈12：23 閉会〉